



## 令和5・6年度 第2回 横浜市救急業務検討委員会 次第

令和6年2月5日(月)  
午後7時から  
横浜市役所  
18階 会議室みなと6・7  
及びWEB開催

### 1 開会

### 2 報告事項

令和5・6年度 第1回横浜市救急業務検討委員会 まとめ

### 3 議題

- (1) 各課題における検討
- (2) 今後のスケジュールについて

### 4 その他

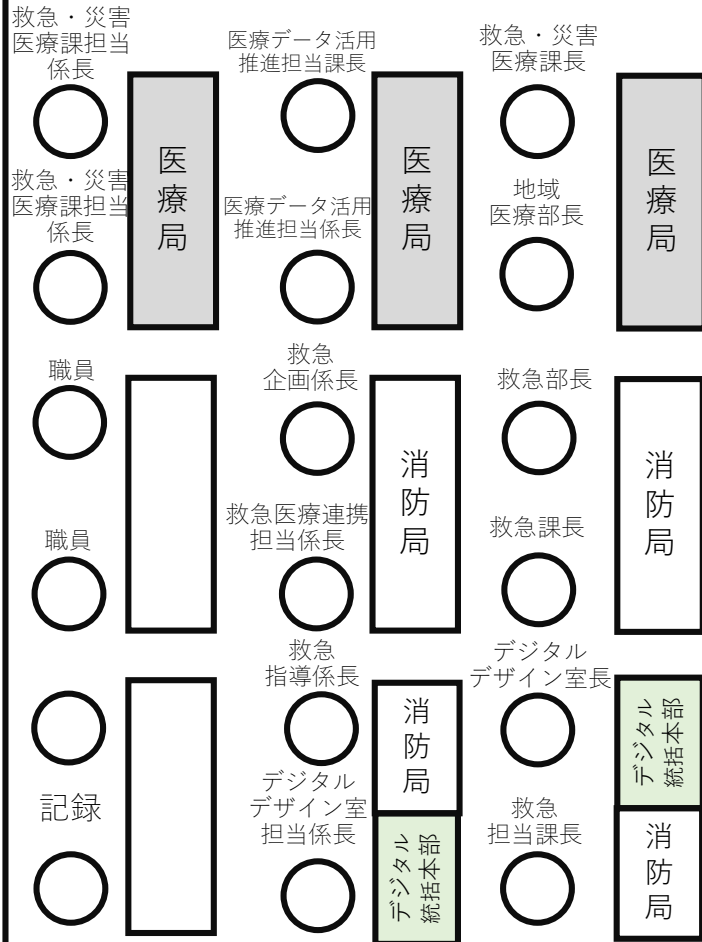
## 横浜市救急業務検討委員会 委員名簿

公益社団法人 神奈川県看護協会 横浜北支部長	うしまる 牛丸	ながこ 良子
一般社団法人 横浜市医師会 常任理事	おがわ 小川	けんしょう 憲章
ジャーナリスト	おち 越智	とよこ 登代子
一般社団法人 ユニバーサルメニュー普及協会 理事	きたの 北野	なほ 菜穂
株式会社 テレビ神奈川 総務局次長	こんどう 近藤	かずゆき 和之
弁護士	たかい 高井	かえこ 佳江子
横浜市メディカルコントロール協議会 会長	たけうち 竹内	いちろう 一郎
一般社団法人 横浜市医師会 会長	とつか 戸塚	たけかず 武和
公益社団法人 横浜市病院協会 副会長	ひらもと 平元	まこと 周
公益社団法人 横浜市病院協会 会長	まつい 松井	じゅうにん 住仁

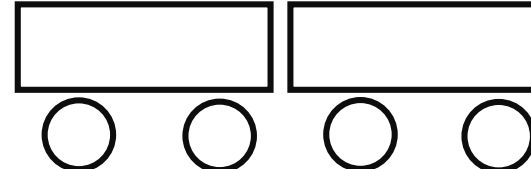
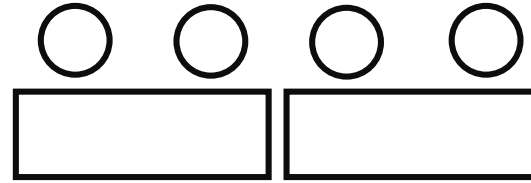
五十音順;敬称略

計 10名

廊下



戸塚  
北野委員 越智委員 小川委員 委員長



平元委員 竹内委員 高井委員 近藤委員

傍聴席 傍聴席



スクリーン

Web参加：牛丸委員  
欠席：松井副委員長



窓

## 令和5・6年度 第1回 横浜市救急業務検討委員会 まとめ

**1 開催日時**

令和5年10月18日（水）午後7時00分から午後8時40分まで

**2 委員長・副委員長の選出**

委員長 横浜市医師会会長 戸塚委員  
副委員長 横浜市病院協会会長 松井委員

**3 議題**

テーマ「救急活動のDX」

- 検討事項
- スケジュールについて

**4 各委員からの主な意見****1 救急隊と医療機関が傷病者情報を共有するためのシステムの整備**

- ・電子カルテが医療機関で異なるが連携できるのか。
- ・横浜で何ができるかが大事であり、オリジナリティが必要ではないか。
- ・システムを導入していく上で業者は、公平に入れていくことが必要ではないか。
- ・DXを導入し、人にしかできないものに人を割くことが大事であり、安全なシステムが必要である。
- ・高齢者とほかの年代で活動時間にどれくらいの差があるのか調査したほうがよい。
- ・既存のシステムを活かすのか捨てるのか、規格をしっかりと見ていくことが必要である。
- ・何を解決したいのか、まず何をやるのかという合意形成が大事である。
- ・情報共有には種類があり、できることから段階を踏むスモールステップでいいのではないか。
- ・既存システムは、データ連携ができるシステムであるのかどうか。
- ・オリジナリティもよいが、この先、良いシステムが出てきたときに、さらに良いシステムを作るような気概が必要である。

**2 デジタル化による事務の効率化及びデータ集約**

- ・AIは学習機能があり、できることから進めていけば精度はあがる。
- ・銀行のシステムトラブルで困ったため、システムが止まった時のことも考えることが必要である。
- ・YMISとの連携がDXを進めるうえでは必要ではないか。
- ・患者と救急隊、そして医療機関の3者の利便性が高くなるようにするのが一番大事である。

**3 国が推進する医療DXとの連携**

- ・国の動向を確認しながら、柔軟に対応してほしい。
- ・軽症者は救急を呼ばないようにする働きかけが必要ではないか。
- ・#7119でもAIなどを活用できるのではないか。

# 令和 5 ・ 6 年度 第 2 回横浜市救急業務検討委員会 資料

令和 6 年 2 月 5 日 (月) 午後 7 時  
横浜市役所 18 階 みなと 6 ・ 7 会議室



## I 救急活動DXで目指す姿

### II 検討事項

1 デジタル化による情報の共有及びデータ集約

2 救急隊と医療機関が傷病者情報を共有するためのシステムの整備

3 国が推進する医療DXとの連携

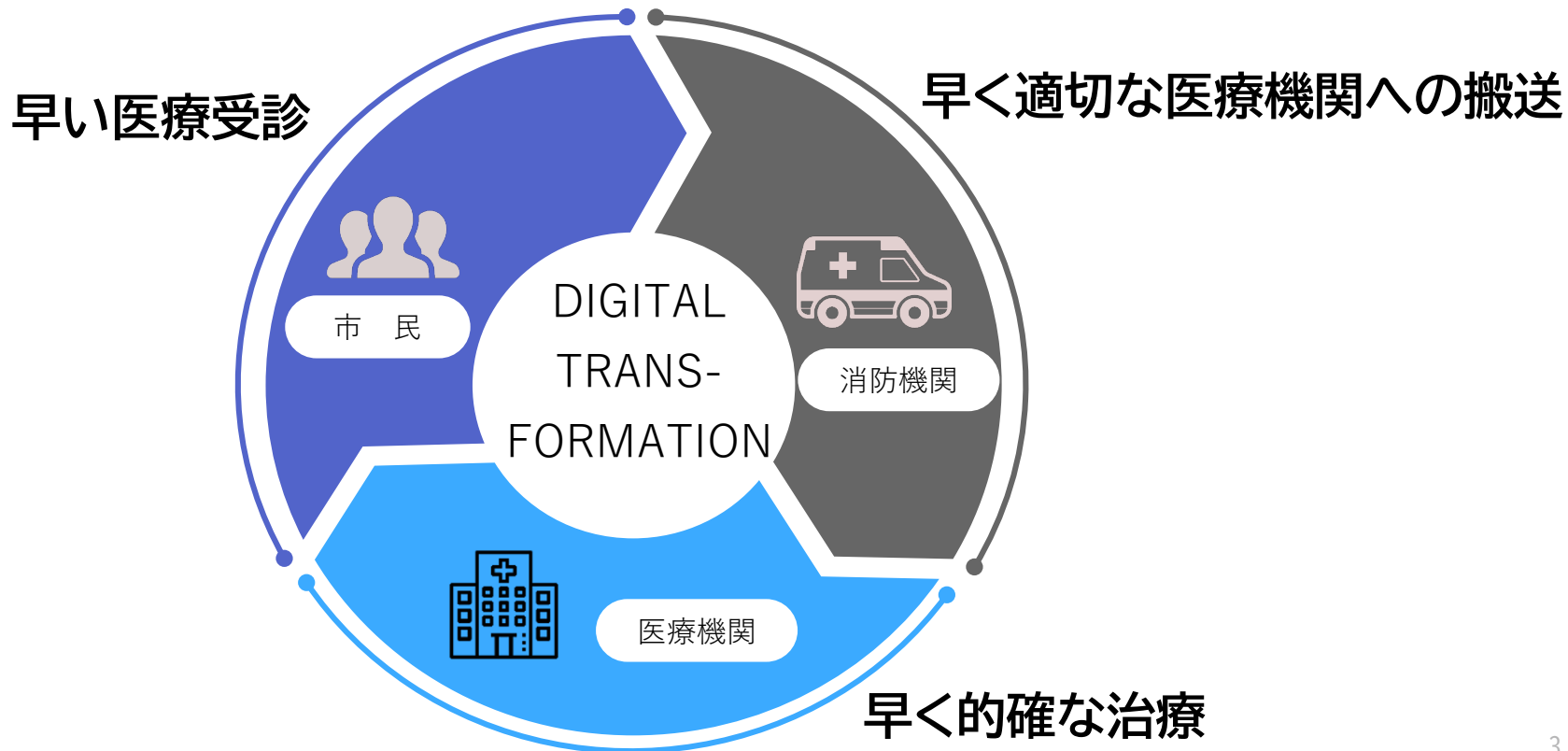
### III 今後のスケジュール

# I 救急活動DXで目指す姿



明日をひらく都市  
OPEN X PIONEER

【救急医療の好循環を作り出し、より迅速・円滑な救急医療を提供】



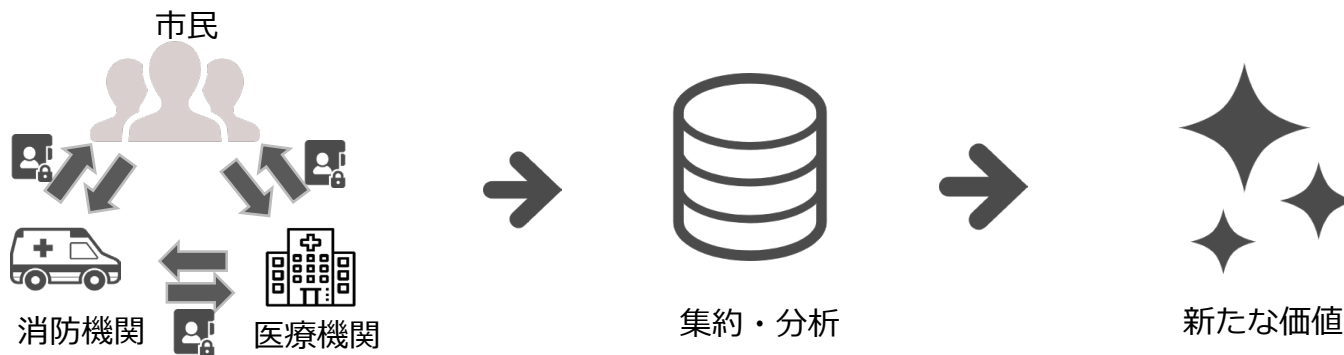
### 1 デジタル化による情報の共有及びデータ集約

#### 【主な意見】

- ・ 傷病者と救急隊、そして医療機関の3者の利便性が高くなるようにするのが一番大事
- ・ DXを活用し、人にしかできないものに人を割くことが大事であり、安全なシステムが必要

#### 【提言の方向性】

- ① 救急隊と医療機関等の情報共有をさらに効率化していく必要がある。
- ② データを集約・分析することによって、新たな価値を創造していく必要がある。





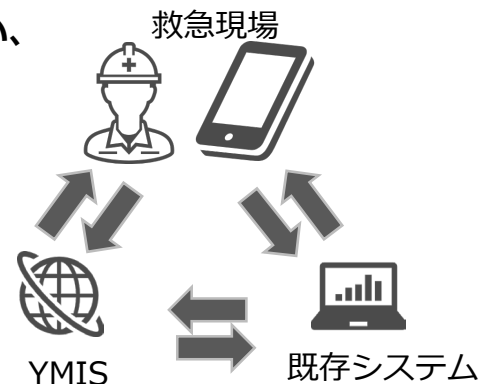
## 2 救急隊と医療機関が傷病者情報を共有するためのシステムの整備

### 【主な意見】

- ・ できることから段階を踏むスモールステップでいいのではないか
- ・ システムを導入していく上で業者は、公平に入れていくことが必要
- ・ システムが止まった時のことも考えることが必要
- ・ Y M I Sとの連携がDXを進めるうえでは必要ではないか
- ・ 既存のシステムを活かすのか捨てるのか、規格をしっかりと見ていくことが必要

### 【提言の方向性】

- ① システムの構築にあたっては、実証実験による試行や医療機関等へのヒアリング等を行い、実際に有効である機能を把握することが必要である。
- ② 試行や導入にあたっては、消防機関と医療機関等の連携のほか、横浜市全体の連携協力体制が必要である。
- ③ 医療機関情報（YMIS）、フィールドトリアージシステム、救急統計入力など既存の業務システムと連携できるようにし、事務の効率化を進めていく必要がある。
- ④ 大規模災害等によるシステム停止を考慮し、停止時の対応を検討する必要がある。



### 3 国が推進する医療DXとの連携

#### 【主な意見】

- ・ 国の動向を確認しながら、柔軟に対応してほしい
- ・ #7119でもAIなどを活用できるのではないか

#### 【提言の方向性】

- ① 急速に変化していく社会情勢に合わせ必要な連携が取れるよう、国の動向等を注視し、対応をしていく必要がある。
- ② 発展著しいAI技術等、今後も発展していくテクノロジーに対する理解を深め、適切な活用方法を検討していくこと

#### 【参考】国のスケジュール（予定） ※第2回医療DX推進本部 資料3 工程表抜粋

救急時に医療情報を閲覧できる仕組みの整備

令和5～6年度：救急時に医療機関等で患者の医療情報を閲覧できる仕組みを整備

↳ 令和6～7年度以降：運用開始

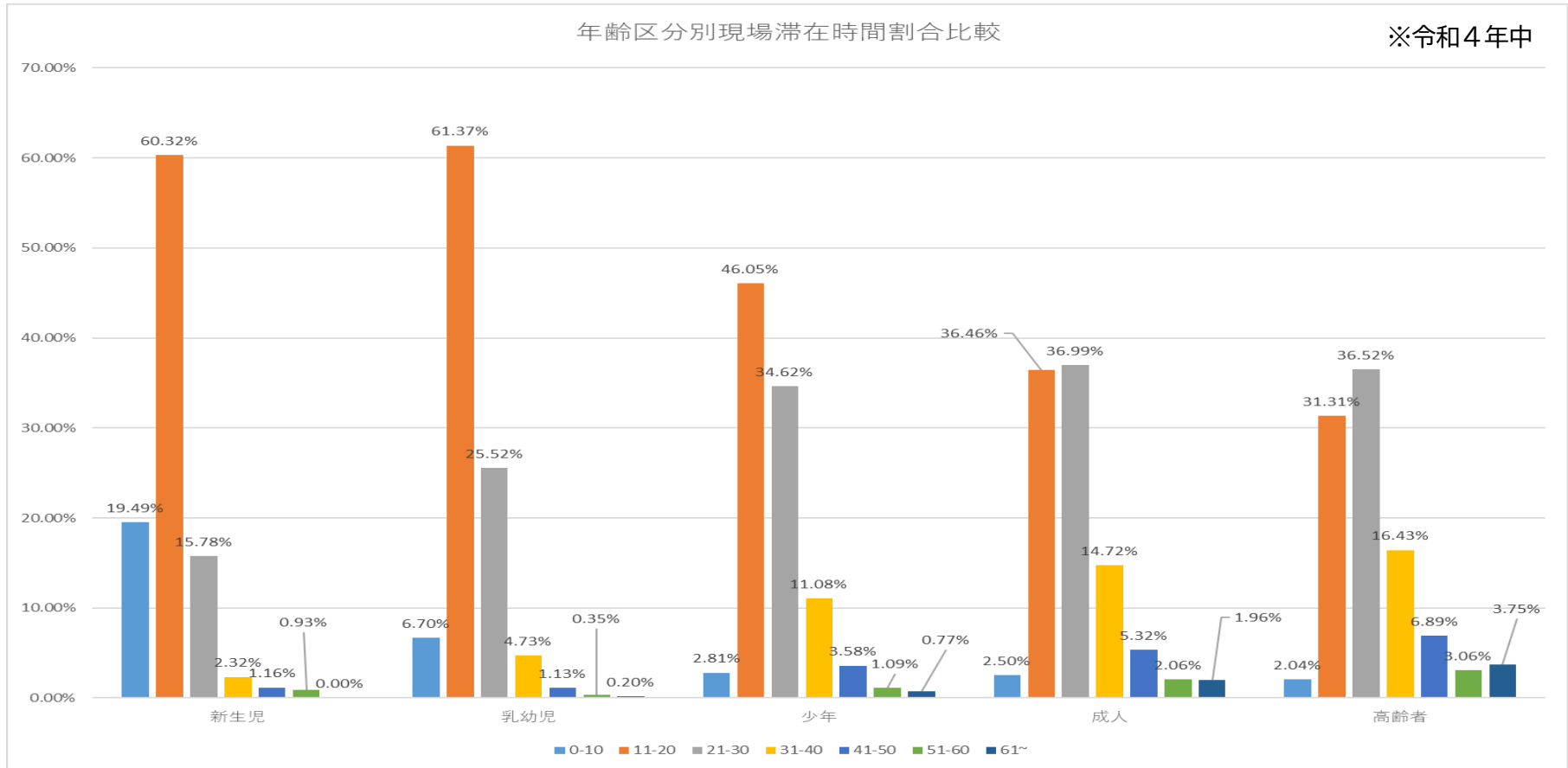
### Ⅲ 今後のスケジュール



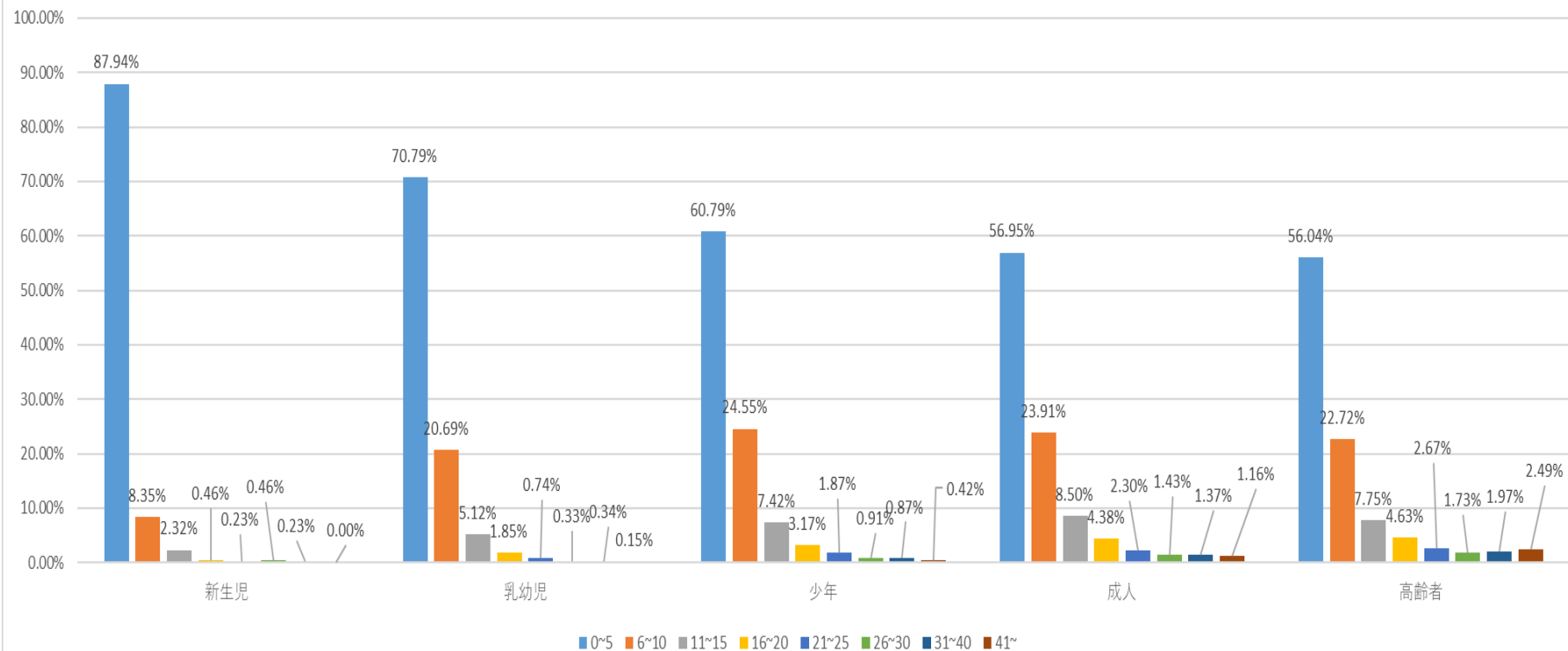
明日をひらく都市  
OPEN X PIONEER

委員会	開催日程	検討事項等
第2回開催(今回)	令和6年2月5日	個別課題の検討及び 提言の方向性の取りまとめ
第3回開催	令和6年4月下旬	第18次提言案の提示
		第18次提言を市長に提出

## 傷病者搬送に必要な時間データ

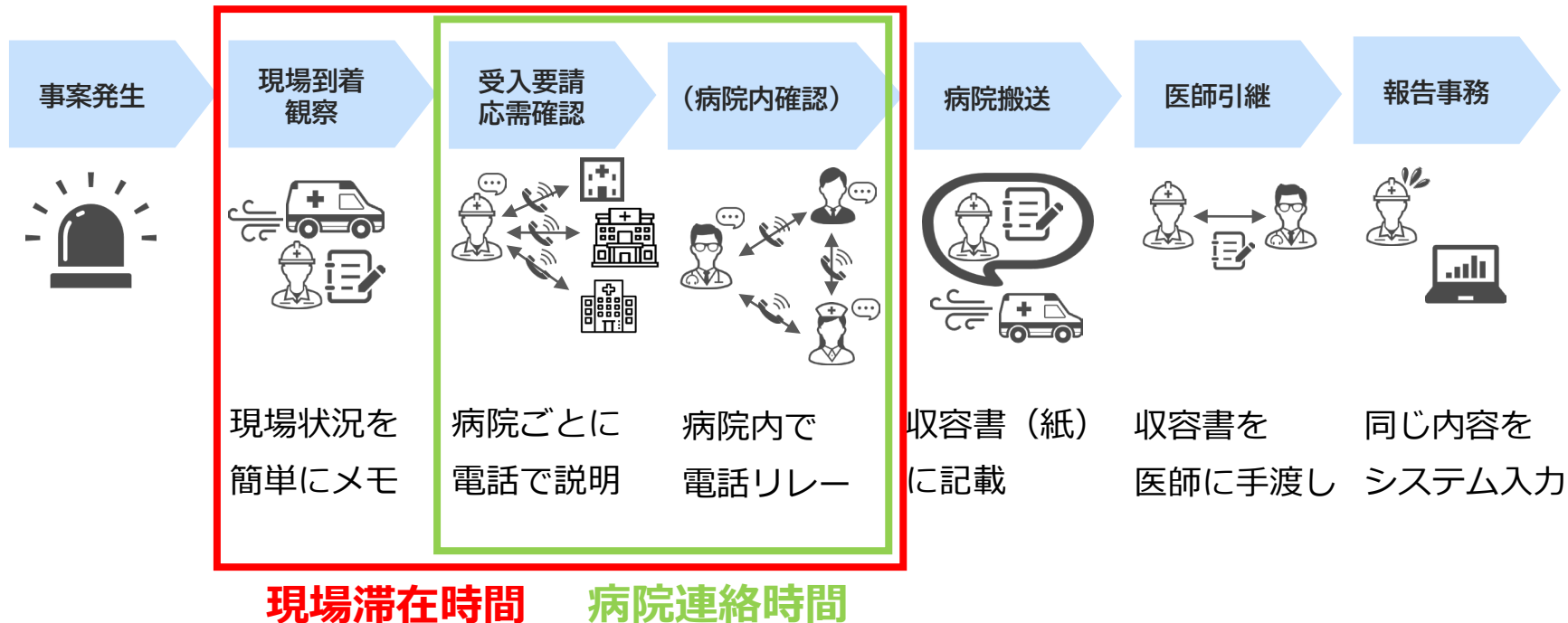


### 年齢別病院連絡時間割合



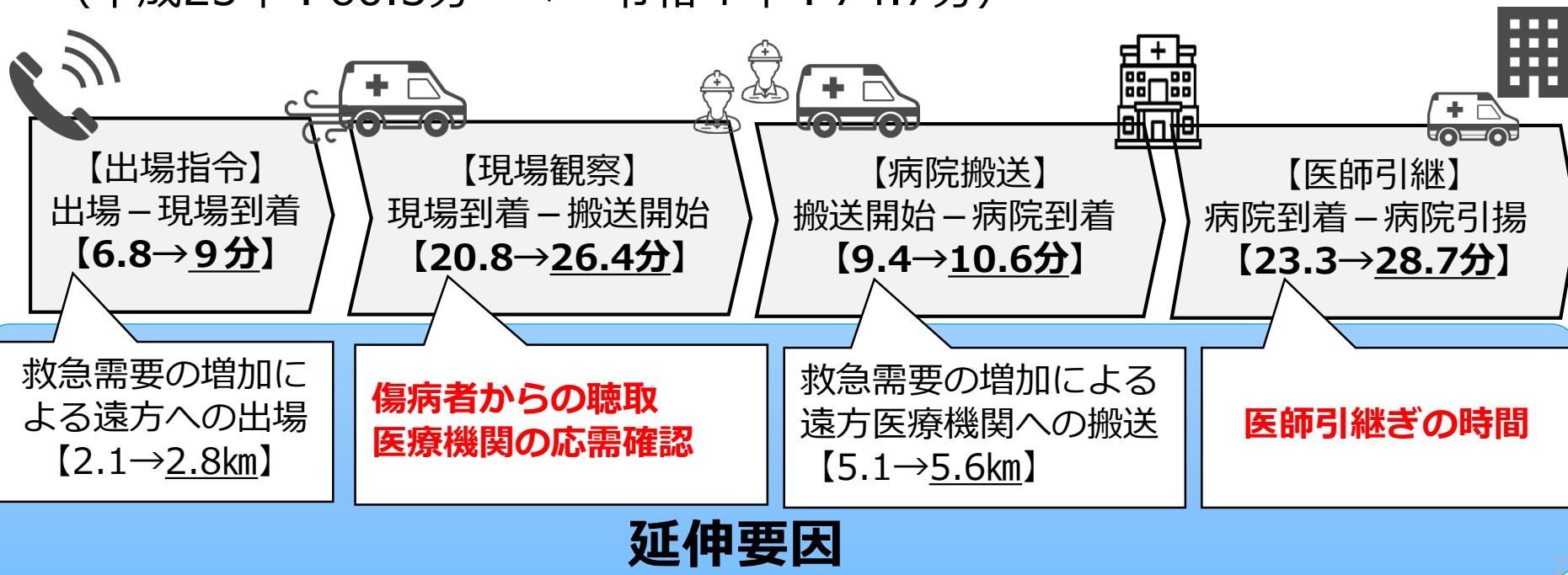
# 救急活動の概要等

## 救急活動の一連の流れ



## 救急現場活動時間の延伸

出場指令から病院引揚までの所要時間は10年間で**約14分延伸**！  
(平成25年：60.3分 ⇒ 令和4年：74.7分)



# DXシステム導入後の救急活動の流れイメージ例

